

「シルバーセーフティーサポート協定」締結



平成 29 年 9 月 27 日（水）秋田県警察本部にて

秋田代協は、秋田県警察本部、秋田県、日本損害保険協会東北支部（秋田損保会）と「シルバーセーフティーサポート協定」を締結しました。

秋田代協塩田会長が秋田県警察本部扇澤昭宏本部長、秋田県生活環境部田中昌子部長、秋田損保会岡崎和男会長と共に秋田県警察本部で行われた調印式に出席し、協定書に調印しました。

この協定は、それぞれが実施する高齢者の交通事故防止の取組みや犯罪被害対策について協力体制を確立し、高齢者の安全で安心な暮らしを送る事が出来るよう連携して推進するという趣旨のもと締結されました。

秋田県の高齢化率は全国トップであり、高齢者の交通事故や犯罪被害防止対策が重要な課題となっています。

高齢者の交通事故に関する協定は他地域にもありますが、秋田県での協定は交通事故防止対策以外にも高齢者の安心安全な暮らしに関わる総合的な協定となっております。

今後も秋田代協会員はお客様の身近な存在として、本協定のもと高齢者事故等の未然防止に取り組んで参ります。



高齢者事故防止へ 損保2団体と協定

県と県警

県と県警は27日、高齢者を交通事故などから守るため、日本損害保険協会東北支部秋

田損保会（岡崎和男会長）と

県損害保険代理業協会（塩田聡会長）の2団体と「シルバ

ーセーフティーサポート協定」を締結した。県警が損害保険関連の団体と協定を結ぶのは静岡県、愛知県に続いて

3例目。

協定では、県や県警が高齢者に関わる交通事故や特殊詐欺被害などの情報を随時提供し、両団体を通じて顧客に注意喚起するほか、4者が連携して事故防止活動に取り組む

協定書を手にする（左から）田中部長、塩田会長、岡崎会長、扇澤本部長



ことを定めている。

県警本部で行われた調印式では、扇澤昭宏本部長と田中昌子・県生活環境部長、両協会の会長がそれぞれ協定書に署名。扇澤本部長は「高齢者への情報発信を行う上で心強い協力者が得られた。協定をきっかけに高齢者の安全で安心な暮らしの向上に、より尽力したい」と述べた。

県警交通企画課によると、県内では2002年以降、1年間の交通事故死者の半数以上を65歳以上の高齢者が占めている。今年も25日現在、死者20人のうち13人が高齢者となっている。（佐々木翔吾）